損保ジャパン
SOMPO 保険の先へ、挑む。

２０２１年１月２５日
損害保険ジャパン株式会社

AI に「病院まで送って」と頼めば自動運転のタクシーが迎えに来る
平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ実証実験を支援

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：西澤　敬二、以下「損保ジャパン」）は、PerceptIn Japan 合同会社（本社所在地：香港、社長：Shaoshan Liu、以下「パーセプティン」）、株式会社マクニカ（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：原　一将、以下「マクニカ」）および株式会社コトバデザイン（本社所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：古谷 利昭、以下「コトバデザイン」）に協力し、「平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ」※1において実施される、「音声によるマイクロ・ロボットタクシー Mopi※2（以下、Mopi）の呼び出し」の社会実験に、自動運転リスクアセスメント※3および自動運転専用保険を提供します。

※１　平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ
国土交通省が国営平城宮跡歴史公園（奈良県奈良市）にて実施する社会実験で、スマートシティの取組の一環として、AI や IoT などの新技術を活用し、公園の抱える課題の抜本的な解決や公園利用者サービスの創出などによる一層の魅力向上を目指す取組です。

※２　マイクロ・ロボットタクシー Mopi
自動運転の EV を使用した低速の近距離移動のためのタクシーサービスです。ラストワンマイル問題を抱える地域の人々の（権利としての）、人々による（自律的な）、人々のための（持続可能な）新しいモビリティを実現します。

※３　自動運転リスクアセスメント
自動運転車の安全な走行と運用を支援するため、計画段階で危険シナリオを洗い出し、危険度を評価して対策を講じることです。

１．実証実験の背景

パーセプティンは、独自のソフトウェア技術によって、超低コストの自動運転ソリューションを活用した Mopi を開発しました。Mopi は、地方の地域住民の生活交通や観光スポット間の移動手段として活用できるまったく新しいコンセプトのマイクロモビリティ（短距離の移動手段）です。

自動運転の車両が安価であれば、高齢ドライバーによる事故や公共交通の衰退による交通弱者の増加といった社会課題を抱える地域でも、自動運転のモビリティサービスを導入することが可能になります。

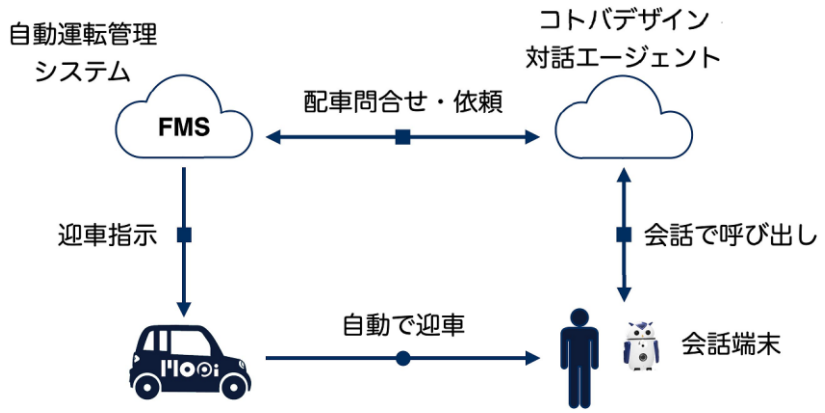
昨年度の「平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ」において、パーセプティンはマクニカと共同で、来場者の回遊性の促進やアトラクションとしての集客力の検証および商用サービスとして提供するための運用面や技術面の課題抽出を目的に、２０１９年１１月から２０２０年３月まで合計１６日間の自動運転のモビリティの実証実験を実施し、６００人以上の公園来場者に Mopi に試乗していただきました。その試乗者のアンケートから、社会実装に対する大きな期待が確認できた反面、いくつかの課題が明らかになりました。

そのひとつは、路線バスのように時刻表に基づいて定められたルートを運行するのではなく、オンデマンドで利用できるモビリティサービスへのニーズが大きいものの、特に Mopi のメインターゲットである高齢者にとって、スマートフォンのアプリでの呼び出し操作が難しいということです。そこで、コトバデザインが開発した COTOBA Agent サービス※4を用いて、対話エージェントとの自然な会話で、誰でもが簡単に呼び出しができる仕組みを開発しました。指示を受けた Mopi は、自動的にユーザーが待つ場所に向かいます。

※４　COTOBA Agent

産業分野向けに対話 AI 実行環境を提供するクラウド API サービスです。従来の対話システムと異なり、IoT からのセンサー情報を取り込んだ対話制御や、自由なシナリオ作成、意図解釈モデル のカスタマイズも可能な、高い自由度と運用の容易さを両立させた対話システムの基盤サービスです。

＜呼び出しの仕組み＞



２．実証実験の概要

■日時

２０２１年１月２８日（木）から３１日（日）午前１０時から午後３時まで
雨天の場合など、中止となることがあります。

■実施場所

国営平城宮跡歴史公園朱雀門ひろば、大宮通り寄りのスペース

■実証実験の内容

平城宮跡歴史公園の朱雀門ひろば（朱雀大路）に、病院やスーパーや駅などの仮想のスポットを設定した会話端末を設置します。その端末と会話して呼び出すことによって、利用者が待つスポットに Mopi が迎えにきます。利用者が乗車し、車内のタッチパネルで認証を行うと、Mopi は指定した目的地に向かいます。

※ドライバーと試乗者の検温、乗車前の車内アルコール消毒など、十分な新型コロナウイルス感染症対策に留意して実施します。

＜対話のイメージ＞

「お名前をお聞かせください」
「山田です」
「どちらまでお乗りになりますか？」
「病院まで」
「9時10分頃にお迎えに参ります」
「はい」
「山田様、病院までですね。承知しました」

■実証実験で検証すること
・会話での呼び出しの体験価値
・自動での迎車を含む自動運転車の乗車体験の価値
・対話エージェントの認識の精度

■車両スペック
・自動運転の超小型モビリティ macniCAR-01※
・平均時速１０kmを想定。
・テストドライバーが同乗し、緊急時には車両を操作。

※超小型モビリティの認定を受けた実績がある、株式会社タジマ EV（以下タジマ EV、本社所在地：東京都板橋区、代表取締役会長兼社長/CEO：田嶋 伸博）の「タジマ・ジャイアン」を、タジマ EV、マクニカ、パーセプティンの３社で、自動運転ソリューション「PerceptIn DragonFly」によって自動運転化し、軽自動車のナンバーを取得して運行地域限定での公道走行を可能にしました。

３．当社の役割

損保ジャパンは、走行エリアのリスクアセスメントを実施することで事故を予防し、安心・安全な実証実験を支えます。また、自動運転専用保険の提供をします。

以上